

【新建みやぎ支部 2019年度 隔月定例会議は1.3.5.7.9.11.月 原則第3水曜日開催予定】です。

現在の仕事や抱えている問題などについて会員からの報告、討議をする場にしましょう。

<支部からのお知らせ>

1. 新建 32 回全国大会の開催について

・開催日時 11月16(土)~17日(日)、場所 和洋女子大学 千葉県市川市国府台 2-3-1

2. 宮城支部総会開催について

・開催日時 9月20日(金)19時 場所 仙台市一番町 141ビル 5F フリースペース

①全国大会関係議案等討議：大会報告、代議員、全国幹事選出等

②宮城支部議案の討議：活動総括、次期方針、役員選出、財政状況等報告等

③当面の支部の取組について

※支部総会欠席の方：送付の委任状の提出をお願いします。

追記：2019年度会費の納入を宜しくお願い致します。

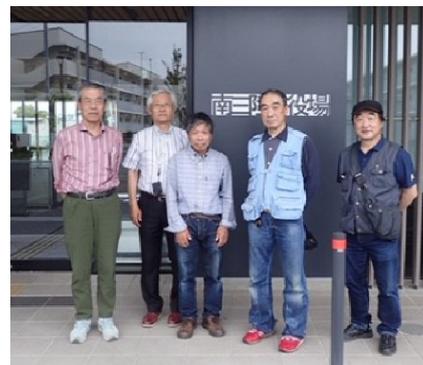
～宮城支部定例会報告～ 春の定例会「南三陸震災復興視察」6月22・23日

<視察の感想>

6月22日(土)夕方4時半頃、南三陸さんさん商店街に到着。お客さんは我々5人の他に数人程度、閑散としていた。「さんさんコート」を中心にその周囲に6棟の平屋建てを配してある。ホームページを見ると、2017年3月3日、本設商店街リニューアル。

隈研吾氏の監修で「仮設当時からの心地よいノイズ感、ワクワク感を残しつつ、より温かみのある商店街にしよう」という隈氏の想いが込められている。と綴られている。

また、商店街の魅力として「目の前に広がる志津川湾、南三陸杉(美人杉)で建てられた温かみのある店舗空間」とのことである。このコンセプトを理解しようとしたが、凡人の私には理解不能でした。



店づくりの基本とは、客層、商品の品揃え、鮮度、価格が最も重要で、ハードも重要だがこの次であると思う。大震災前の志津川町商店街の顧客は誰かということです。

顧客の殆どが地元の地域住民のはずでした。それに+αとして、旅行者、釣り人が海産物の土産品を買い求めるとい程度でした。

「まち」が出来上がるまでには、そこの地域特性と生業、生業の持続可能な経済の営み、そこに関わってきた数えきれない人々が長い年月をかけてつくりあげてきた結果だ



と思う。それだけに、復旧ができてはじめて復興に向かうことができるのだと思う。復旧には、生業は勿論のことですがコミュニティの復活との同時進行が必要です。そのためには、そこに住む人々が中心となった復旧・復興が必要です。その後押しするのが行政であり、各専門家集団の役割だと思います。

6月22日、23日と1年ぶりに被災地を視察して思ったことは、南三陸町沿岸の漁村は全て高台移転させられ、海と断絶させられ、

ほそぼそと漁業を続けているようですが、漁港は閑散とし活気は全くありません。漁港(生業)と分断され、家族と分断され、地域コミュニティと分断され、人気を感じさせない10世帯程の集落を目の当たりにすると、背筋が寒くなってきました。5年、10年後にどうなっているのか？

考えるだけでも恐ろしい。でも、検証が必要です。以上

(小椋 記)

寄稿 =東日本大震災被災地の復旧・復興状況視察を終えて=2019年6月22日~23日

一日がかりのドライブで体がもつかどうか不安でしたが、無事終わることが出来ホッとしました。

加齢とともに時々車酔いが、いつもになりそうな状況の中、“トラベルミン”なしでなんとか気仙沼から旧北上町までの沿岸部南下を無事やりとげました。

しかし、予想はしていたものの、どこに行ってもコンクリートの風景！まず、自分がこのような仕事に巻き込まれてしまったことの後悔です。無力さです。

被災直後の市街地から受けた無力感とはまた別の情けなさが一層募りました。いまもそれが自分のところを覆っています。

宮城の風景はすっかり変わり果ててしまったのですね。視察数日はコンクリートの風景にうなされて、寝つきも悪く、夜中、日記に支離滅裂なことを書きつけました。視察後2、3日過ぎてから友人に送ったメールに印象をまとめましたが、次の通りです。

一つは、復興が巨大土木工事の下に埋もれてしまった。

二つ目には、集落とか浜辺という日常の風景がすっかり消えようとしている。

三つ目には、文明には、破壊という野蛮も未開も含まれている。

また、別の友達には、「この間、沿岸部を気仙沼から南下しました。いや～凄まじい風景ですね。

これが人間のやることか！というのが実感です」というメールを送りましたが、彼女からは「このごろ友人のたくさんいる唐桑にもなかなか行っていませんが、風景を想像するのが恐ろしいです」という返信がありました。

宮城の沿岸部のコンクリートの壁には、自然に対する畏怖の念の全くない強烈な人間主義、現在主義が宿っていると思います。この異常さが異常だとは受け止めることのできない社会（究極は金になれば良いという社会）について、生涯（命）をかけて問い続ける価値は充分にあると思います。それが歴史を少しでも前に進める、あるいは後退を少しでも押し止める力なのだから。

(阿部重憲 記)



支部の取組(新建への相談依頼への対応報告)

1) 岡田復興公営住宅建設工事に伴う住宅破損について(仙台地裁に提訴、支部大石さんが陳述等対応)

相談依頼時に地元紙も取上げた事案。9月3日に原告側、被告は仙台市と建設業者。仙台市5人傍聴、支部3人出席。今回原告側から「陳述書 甲 第41号証」(大石さん作成)を提出。次回11月26日15時～。裁判長は「破損の因果関係立証は原告にある」と。不十分な資料しか被告側は提出していない。

2) あすと長町復興公営住宅日照問題(新建相談依頼：2018年12月、阿部重、西條、大石、小椋、荒木、岩淵)

(1)相談概要：震災避難で雄勝町(元副町長)から仙台市公営(集合)住宅入居。日中でも暗い、玄関から暗い生活、居間も太陽光は射し込まず真昼から照明暮らしに驚いた、何もできない。市への要望もゼロ回答。玄関に明り取り小窓設置など。(東京マガジンが全国放送)その後、9月北側に東北一のタワーM完成。四方を高層Mで囲まれた。

(2)現地調査とヒアリングを実施(2018.12.9日曜)、下記の見解を提出しております。

「あすと長町復興公営住宅」日照不足と明り取りに関する調査と見解 2018年12月9日(日)PM1:00~1:40

<出席者> 居住者側(菅原会長、安藤氏、大山氏)、相談紹介者(仙台市議：嵯峨サダ子議員)

新建宮城(阿部重憲、岩淵善弘、西條芳郎、大石 勝、小椋正博：記録者)

調査対象

A：「あすと長町復興公営住宅」312号室日照不足(採光の確保)

B：倉庫(3階西端)の有効活用(他階のラウンジ等名称の部屋も含めて)

A. 312号室の現状調査結果

- ①「時点等の日影(冬至 測定面=地盤面) ●南側Mによる日影 ■東側Mによる日影」を参考にすると、312号室は午前11時の前後約1時間程度の日照時間となる。
- ②北側廊下側の玄関ドア(写真1)を開けると直ぐに食堂・台所という間取り。
- ③中に入りドアを閉めたら真暗(写真2)。手探りでも歩けない。

④居住者へのヒアリング

- ・午前中約1時間程度の日照時間であるとのこと。そのため洗濯物も乾かない。
- ・食堂・台所は一日中、照明を点灯せざるを得ない状態である。
- ・日照不足による健康被害の懸念や、毎日悩むことで精神的に非常に辛い。
- ・東側マンションの部屋からこちらが丸見えになる。こちら側からも丸見え。
(お互い様だが) 窓にフィルムを貼るなどして欲しい。

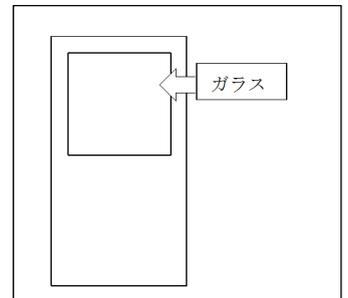
調査結果の見解

①建築技術者としての見解(312号室)

- ・食堂・台所の日照は「全くのゼロ」。全くの暗闇。
- ・南のバルコニー側からの日照は冬至で1時間程度。
- ・これでは、生活する上で一日中照明を点灯せざるをえません。余分な電気代も増え、経済的にも負担増です。
- ・建築基準法は最低限度の基準であり最良ではありません。与えられた諸条件の中で可能な限り安全・安心・快適な住空間を提供することが求められていると思います。
日照不足による健康被害は体や精神面にも発生します。特に「うつ病」「不眠症」「骨粗しょう症」などが懸念されます。せめて採光だけでも確保できる改善策を要望します。
- ・大震災で被災し「終の棲家」と決意して入居した方々が、冬の季節、寒く暗い部屋で過ごす日々の思いを想像してみてください。

居住者要望として

- ①食堂・台所の明り取り(採光の確保)のために、玄関ドアに「型ガラス」を入れる。施工方法は玄関ドアのみを交換する方法を採用する方が日常生活上、最小の影響で済むと思われます。
- ②食堂・台所部屋の南面の建具(引戸)を明かりが取れる(採光の確保)建具に交換する。(例えば障子風の建具など明かりを通す建具にするなど)



B. 3階西端の倉庫について

- ・現在、使用されていない。日照は午後1時頃から夕方まで直射日光が当たる部屋である。
(西側は大通りがあり、高層建築物も無い)
- ・建築計画ではコミュニティスペースとして活用することを狙いとしていたと思われる。
- ・給排水設備、ガス設備などは近くのPSから引き込み可能。

居住者要望について

各住居が日照不足であること。そのことがカラダや精神面の健康障害を引き起こす原因になる恐れもあること。居住者間のコミュニティづくりの場として活用することで、孤立化を防ぐ、連帯や助け合いなどの共助づくり、生きる力をつくり出し、終の棲家としてふさわしい住居づくりに繋がると思われることから、居住者の要望である。コインランドリー設置と居住者のコミュニティづくりの場として開放する活用を要望します。

倉庫(3階西端倉庫)の調査結果

①この建物(復興公営住宅)の中で日当たり(午後1時頃から4時過ぎまで)が最も良いと思われるが、現在全く使用されていない。建築計画当初は「コミュニティづくりの場」を提供する趣旨があったように思われる。他の階にも「倉庫」、「プレイルーム」、「ラウンジ」などの名称がついているが、いずれの部屋も使用されていない。また、この部屋には照明器具、コンセント、カーテンレールなどが設置してある。但し、上下水道、ガスの設備が無い。

②居住者へのヒアリング

- ・バルコニーに洗濯物を干しても、日が当たらないので乾きにくい。頻繁にコインランドリーに行かざるをえない。日当たりの良い倉庫にコインランドリー設置の要望。
- ・他の階に同様の部屋があるので、コミュニティづくりの場として有効活用要望、お茶飲み会、「おしゃべり」、「日向ぼっこ」などなど (以上)

【現地調査に参加して：阿部重憲】

寒い日でしたね。岩淵、小椋、大石、西條さんと私の参加で表記(今は「復興」という文字が消え「市営」となっています)の調査をしてきました。

三方をタワーマンションに囲まれた住宅には冷たいビル風も吹き付けておりました。

ご承知のように、入居者の方々が中心となって、日照問題のなんとかしよう運動を進めてきました。これまで居住者の要望に市は冷たい態度をとってきましたが、郡市長になってから家賃問題の解決に向けた動きをはじめ、当該問題についても対応しようとの姿勢になってきました。

この問題について、市から嵯峨議員への改善策が示され、その策への入居者サイドからの評価、対応を検討するための調査でした。

中心になって運動を進めている安藤さん宅を訪ね、お話も伺いましたが、問題は極めて深刻でした。3階なのですが、今は1時間しか日当たりがなく、障害者用の1,2階は全く日照がない状況だそうです。健康の面でも待たなしの状況のようです。

現地調査後に長町駅の喫茶店で意見交換をし、①明りの入る玄関ドアへの交換、②居室への採光の確保、③使われていない部屋のランドリー活用についての提案取りまとめを行うことにしました。

お疲れ様でした。久々の支部としてのチームワークで、皆さんからも期待され、嬉しい日になりました。ありがとうございました。

(3) あすと長町復興住宅採光実験結果報告(2019.01.15 月 15日 13:30~14:30 実験実施)

<出席者> 居住者側(安藤氏)、相談紹介者(仙台市議:嵯峨サダ子議員、すげの直子市議)、県民センター(金田、小川) 新建宮城(阿部重憲,荒木吉秋,小椋正博:記録者)

採光実験条件は以下の通り

- ①対象室 312号室(3DK)、311号室(2Ka)
- ②玄関ドアに明り採りの型ガラス(同等)を入れた場合
- ③部屋内部の仕切り建具(引き違い戸、一本引戸)を障子風の明かりが透る素材にした場合

○ 312号室

- ・玄関ドアに「明かり採り」(型ガラス風)を入れた場合 **(写真1、参照)**

現状は真暗で何も見えなかったのが、靴・床面・壁・各室ドア・家具などが十分とは言えないが判別で、照明を点灯しなくても歩行可能である。

- ・部屋の境の建具を明かり採り(障子風素材)に変えた場合 **(写真3、参照)**

玄関ドアの明かり採りに比べると、思ったほどの明かりは期待できなかった。

- ・玄関ドアの「明かり採り」を北側廊下から見れば、住民同士の安否確認にもなることから二重の効果期待できる。

(写真2、参照)

○ 311号室の場合

- ・玄関ドアに「明かり採り」(型ガラス風)を入れた場合 **(写真4、5参照)**

現状は真暗で何も見えなかったのが、台所の殆どが見えるようになった。

312号室と比較して、狭い311号室の方が「明かり採り」の効果が大きく、歩行も十分可能である。

- ・部屋の境の建具を明かり採り(障子風素材)に変えた場合 **(写真6、参照)**

玄関ドアの明かり採りに比べると、思ったほどの明かりは期待できなかった。

- ・玄関ドアの「明かり採り」を北側廊下から見れば、住民同士の安否確認にもなることから二重の効果期待できる。 **(写真2、参照)**

(以上)

3) その外に、支部会員が取り組んでいることを紹介します

- ①佐々木会員；森林見学会等を通じた建築活動
- ②岩淵会員、阿部重会員；震災復旧復興支援みやぎ県民センター世話人活動
- ③新井会員；NPO法人つながりデザインセンター・あすと長町(つなセン)
- ④阿部元希会員；みやぎボイス等の運営
- ⑤阿部重会員；まちづくり学校運営(太白区民の会)

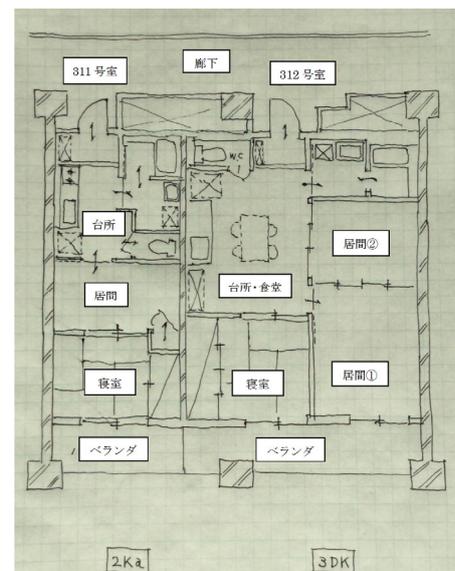


写真1 玄関ドア



写真2 食堂台所 照明OFF時
真暗なので食堂隣室の引戸を僅かに開けて写真を撮ったので少し明るい。



写真3 食堂台所 照明ON時



写真5 311号室バルコニーから東側マンション望む



写真4 食堂台所の南面

編集後記：新建も高齢化が進み廃業などで会員の減少がありますが、めげずに新規会員の入会が待たれます。支部では隔月定例会の定着を期に開催のつど「建まち誌(会員拡大用)や「やっぺあ」を余分に配布しております。新規会員獲得への取組をお願いします。支部の50周年記念行事企画中です。